

次期一般廃棄物最終処分場について 説明会 質疑応答内容

日 時:令和8年3月7日(土) 午後2時00分から午後3時00分まで

場 所:麻溝公民館1階大会議室

【質疑応答】

○参加者 ●清掃施設課

【選定理由について】

○既に候補地8で決定しているように見える。

●これまで約4年に渡り、候補地毎の地域説明や専門家による調査を行ってきた。その中で、市として候補地8を最も有力な候補地とした段階である。今後、基本計画を策定する中でパブリックコメント等を経て、候補地から正式な整備地へ確定する。

○他の候補地の面積はどれくらいか。

●候補地5が約15ヘクタール、候補地6が約16ヘクタール、今回選定候補地8が約12ヘクタール、候補地9が約9ヘクタールである。

○人口増減によって、ごみの排出量が変わるがそれを踏まえた計画になるのか。

●今回説明した最終処分場に必要な面積9.4ヘクタール(基本構想時)は、人口減少を見据えたごみ推計量で決定している。今後の基本計画策定において、現在の人口動向を踏まえたごみの量も推計した上で、最終的な規模を決めていきたい。

○候補地8における地権者の賛同割合は。

●今後、基本計画策定で整備範囲が決まるため、現時点で把握できてはいない。

○候補地8と候補地9を比較して、市の説明では候補地8を選定するのは安易に思える。候補地9は公園用地で市が7割程度土地を所有しているのであれば、最終的な跡地利用が公園であれば候補地9を選ぶべきだと考える。工事費が少額である理由が大きいかもしれないが、それだけで決めるのであれば安易である。跡地利用も含めて合理的に公園用地を使う視点で、候補地9を候補地とする見直しを考えても良いのではないか。

●候補地8と9の比較について説明すると、候補地9を選定する場合の課題は、すでに公園の整備用地として都市計画決定がされているところ。また、首都圏近郊緑地保全区域であり、大量の樹木伐採が必要であること。その他には、地中に雨水幹線が横断していること、希少動物の営巣が確認されていること、敷地面積が比較的狭いことがあり、様々比較した結果、候補地8の方が有利であるという結論に至った。

○最も有力な候補地内では、第三者による土地売買に関する話を聞くが、今後、土地購入を行う市は第三者の売買をどのように考えているのか。

●令和8年度基本計画策定の中で整備範囲を整理していくため、現時点では土地の取引に関する制限はできないと考えている。

○ごみは減らしたいと考えているが、スーパー等で過剰包装が見受けられ、ごみを減らしたくても減らしきれない。そのため、生産をする企業側の価値感を変える必要があり、生産者・消費者も全員がそれぞれの立場で、努力していく必要がある。広域のエリアでプロジェクトチームを立ち上げて、このような将来にわたる施策に取り組んでほしい。

●過剰包装については国レベルの課題であると考えており、現状の国レベルの取組としては、容器包装リサイクル法で、分別してもらった容器包装を自治体が集めリサイクルを行い、生産した企業がリサイクルに関するお金を出すことを定めている。また、さらにそうい

う過剰包装を廃止する動きもあり、市として、国や近隣自治体、政令指定都市と連携していきたい。

○候補地9内に土地を所有しているが、その土地に通じる市道が通れなくなっている。今後、整備の予定はあるのか。

●候補地9は都市計画上公園用地になっており、将来的に公園として整備していく予定である。当該地は約7割が市の所有であり、将来的な公園整備の中で検討していくことになる。

○ごみの削減の説明を聞くと、お題目ばかりであり、このままではごみは減らないと考える。各自治会では、ごみ分別に取り組んでいるが、やらない人は一切やらない。そういった、現状をどう対策をしていくのか、最終的に埋立てゼロにするにはどういう取り組みを具体的にしていくのかが必要になってくると考える。言葉だけの安易な形じゃなくて、具体的な行動を示し、活動していかないと、絶対にごみは減らないと思う。

●ごみ削減に向けた取り組みの中で、現在相模原市の廃棄物減量等推進審議会においてごみの有料化あるいは戸別収集について、諮問している。何か一つだけで埋立てゼロに向かうのではなくて、様々な取り組みにより、次の次の最終処分場はもう作らないということで、今、次期相模原市総合計画もそういう方向で進めていきたいと考えている。

また、本年10月から製品プラスチック等の一括回収を予定している。プラスチックのおもちゃなどのプラスチック製品や、シュレッダー紙等をリサイクルできることがわかってきたため、本年10月から全市的に展開する。詳細は、担当部署から改めて説明したい。

○現在、一般廃棄物最終処理場で埋立物に、健康に害するような化学物質など含まれているのか。

●大半はご家庭から出たごみの中に含まれる塩分だが、他には、例えば電池などが分別されずに捨てられてしまうことで、マンガンや鉄などの重金属類が微量に含まれている。しかし、このような金属は最終処分場内の浸出水処理施設で処理され、国の基準を満たしてから公共下水道に流しており、現在の最終処分場についても安全に稼働している。

以 上